

ここから これから

NPO 法人 北海道 NPO サポートセンター
2020年9月号 [季刊発行]

Vol.
2

からから 便り



北海道と疫病の歴史 疫病の神「パヨカカムイ」

道内避難者アンケートに寄せられた声

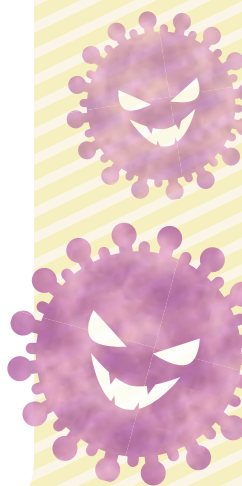
寄稿 「1ページのたより」

ここから これから からから相談
お墓のなやみ

北海道における被災避難者の受入状況

編集後記

疫病の神「パヨカカムイ」



新型コロナウイルスに限らず、疫病により人々の暮らしが脅かされた記録は、古くからあります。中でも天然痘は、奈良時代(710~794)以降たびたび流行が繰り返されましたが、北海道での流行は、和人との交易が頻繁になった江戸時代のことです。「万物に魂が宿る」と考えるアイヌのくらしの中で、命を奪う疫病に、人々はどう向き合ってきたのでしょうか？



公命蝦夷人種痘之図
歌川国貞(北海道大学附属図書館所蔵)

北海道の天然痘の歴史でもっとも古い記録は、寛永元(1624)年、松前で天然痘が流行し、子どもが多数亡くなったという記述です。その後も天然痘はたびたび流行し、寛文9(1669)年に起こったシャクシャインの戦いの発端は、松前藩に派遣されたアイヌの使者が、帰路に天然痘にかかり死亡したことが、「松前藩による毒殺」と伝えられたため、と言われています。また、石狩川流域のイシカリ場所※では、安永9(1772)年に647人、文化年間(1804~1818)には

アイヌ2130人余りのうち926人が罹病、833人死亡したと記録されています。1700年代のアイヌ人口は2万人超とされており、その後、減少し続けていることを考えると、アイヌにとって、外からもたらされた疫病の恐ろしさは言うまでもありません。

集落の入口の柵につけたり、戸口に行者ニンニクなどを置いて近づかないようにしました。また、「パヨカカムイエピル(疫病の神をお祓いする儀式)」で祈りをささげ、わざと粗末な食べ物供えて「ここにはこのような食べ物しかないのです、豊かなところへ行ったらどうですか?」と、

けれども、アイヌは「疫病と戦う」のではなく、「もともと、人間と疫病の原因は共存している。人間の行いが原因でそのバランスが崩れたから(パヨカカムイ/歩き回って疫病を広げる神)がやって来たのかも知れない」と、考えます。そして、パヨカカムイに帰ってもらい、自分に近づけないことが病から逃れる方法であると考えられていました。

パヨカカムイは悪臭や棘のあるものが苦手とされ、棘のある植物を

集落以外のところへ案内するようなことも行われていたようです。そして、お祓いの儀式でも鎮まらない時には、自分たちの集落を放棄し、山中など人のいない場所に移動し、自然の中で人との接触を絶って暮らすことで、蔓延を防いでいました。

感染した人には、体の中に入った悪いものに出て行ってもらうため、行者ニンニクなど匂いの強いものを鍋で炊き、衣服にその匂いを浸み込ませたものを着せたり、薬としても

使用していたようです。さらには、悪いものを追い払うため、棘のある植物などで体をたたき、清めました。アイヌに天然痘が広がった理由の一つは、松前藩の「場所請負制度」※によりアイヌ交易の独占管理が行われたことと、アイヌを離散させないように移動を制限したことが挙げられます。天然痘の感染は止まらなくなり、道内各地に広がり、アイヌの人口は減少していきまました。

ロシアで種痘法を習得した中川五郎治により、文政7（1824）年、日本初の種痘（天然痘の予防接種）が松前で行われました。種痘はこれまで経験のない治療法のため、噂や迷信も広がり、全国的に治療法として広がるまでには時間を要しました。しかしあまりに多くのアイヌが天然痘で亡くなることから、安政4（1857）年、日本で初めて、公費による強制的な集団種痘が行われました。



※江戸時代、アイヌと和人の交易は松前城下ではなく、松前藩が区分した「場所」ごとに行われ、「場所」は藩の家臣により管理されていました。この制度を「場所請負制度」といいます。

参考…
「新札幌市史」北海道の医療 その歩み
「アイヌの伝承と民俗」新羅之記録

右の図は、国土交通省北海道開発局 帯広開発建設部が作成した冊子「時を超えて十勝の川を旅しよう！ 第3章 十勝のアイヌ文化と川」から引用しています。この冊子は、アイヌ文化を知るのにオススメです。



帯広開発建設部 ウェブサイト



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間



(公財) アイヌ民族文化財団 提供



写真はイメージです

今年7月12日に開業したウポポイ(民族共生象徴空間)は、北海道などの先住民アイヌを主題とした日本初の国立博物館「国立アイヌ民族博物館」、体験型フィールドミュージアム「国立民族共生公園」「慰霊施設」などで構成された施設です。博物館には、常設の基本展示室と期間を限った特別展示室があります。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、前日までに①ウポポイに入るための入場日予約、および、②博物館に入るための入館日時予約が必要となっています。予約は電話受付がなく、特に博物館の予約はオンライン手続きのみのため、手続きが難しい方は北海道 NPO サポートセンターまでご相談ください。

住所：〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3

電話：0144-82-3914

営業時間：平日 9:00～18:00

土日祝日 9:00～20:00 (2020年9/1～10/31)

休園日/月曜日 (祝日の場合は翌日以降の平日)

入場料：大人 1,200円、高校生 600円、中学生以下 無料

年間パスポート：大人 2,000円、高校生 1,000円



燈明台：魚から取れる油を帆立の貝殻に入れ、糸などをよりあわせた芯に染み込ませ、照明道具として使っていました。



トウレブアカム (オオウバユリの団子)：オオウバユリの球根からデンプンを取り、団子にして乾燥させたもの。長い冬や飢饉に備えてつくられた保存食です。

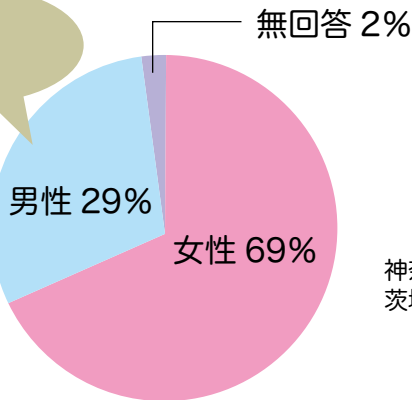
道内避難者アンケートに寄せられた

今年6月に実施した「道内避難者アンケート」は、全道374世帯に郵送し、インターネットからの回答も含め、58名の方に回答を寄せていただきました。ご協力をいただき、ありがとうございました。

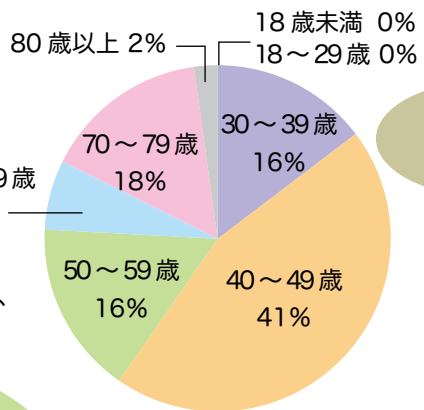
「これまで、何度もアンケートに回答をしてきたが、結果を知る機会がなく、ほかの方々がどういった回答を寄せているのか知りたい」というご意見を何度か耳にしてきたこともあり、今回のアンケートは、一人ひとりの「声」や「思い」を集め、本紙面上で知り合う（共有する）ことを目的に実施しました。本紙上には選択項目を設けた質問への回答をグラフにまとめたものを、自由記述いただいたものは別紙に掲載し、お届けします。

回答者データ

性別

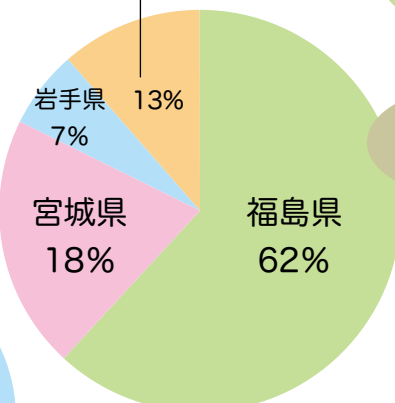


年齢



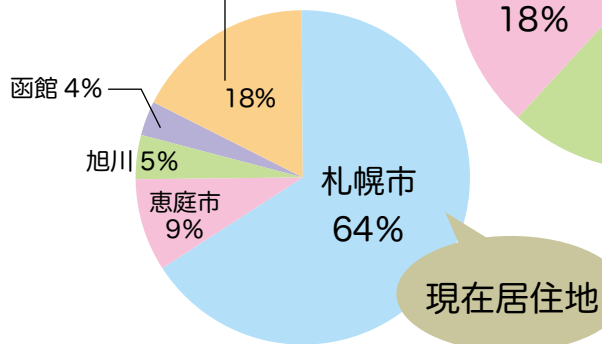
神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県

避難元

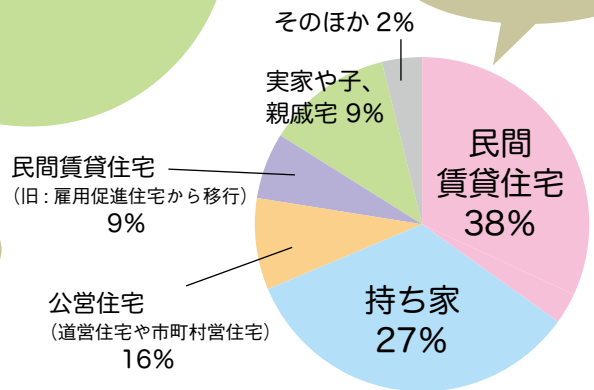


現在の住まい

江別市、新篠津村、小樽市、余市町、夕張市、深川市、長沼町、東川町、紋別市

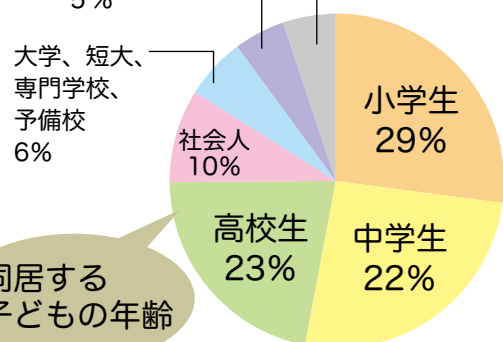


現在の住まい

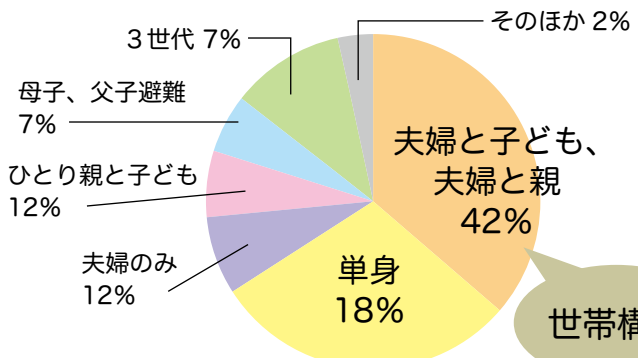


現在居住地

乳幼児 (3歳未満) 5% 未就学児 (3歳~5歳) 5%

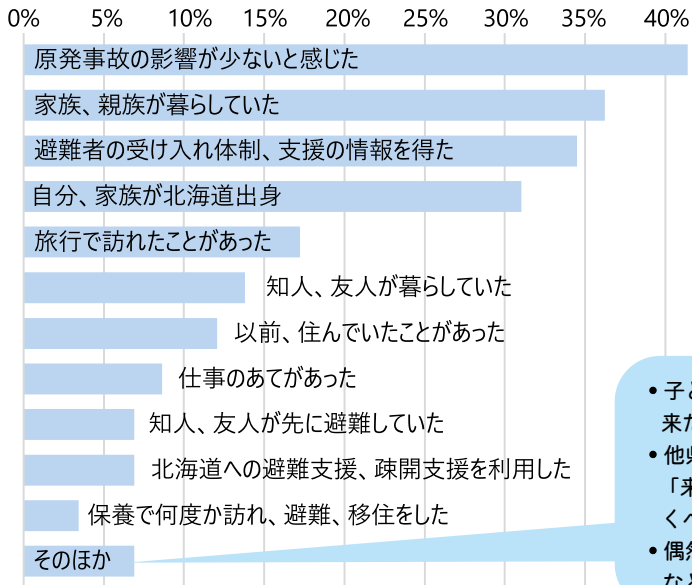


同居する子どもの年齢

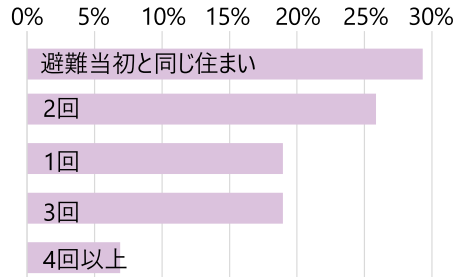


世帯構成

北海道を避難先として選んだ理由で
当てはまるものを教えてください。(複数回答可)

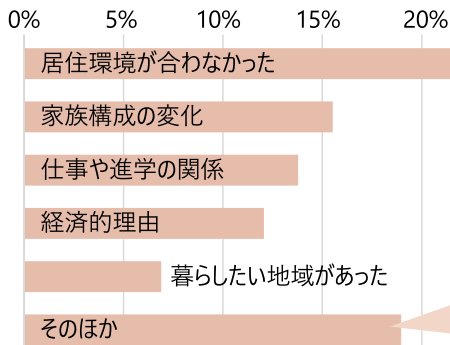


北海道に避難してからの
転居回数は何回ですか？



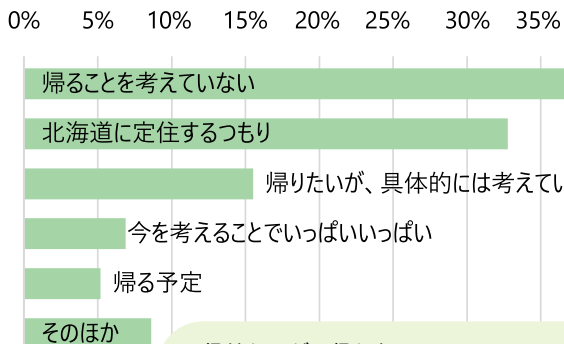
- 子どもの就職が札幌に決まったため、家族で一緒に来た。
- 他県では全く相手にされなかった。北海道だけは「来てもいいよ」と言ってくれた。とにかく早く遠くへ逃げないと、と思った。
- 偶然ということにしておきます。など

転居をされた方に伺います。
転居の理由は何ですか？(複数回答可)



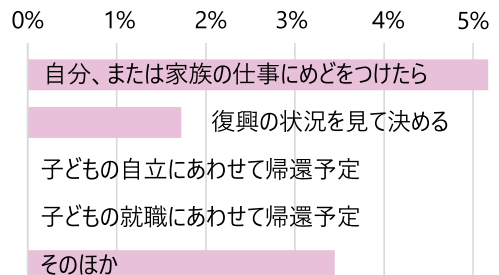
- 2回目のところで、住んでいた人から嫌味を言われ、3回目のところでは、管理人から「家賃払っていけるのか？」と。
- 住宅の無償提供が終わり、その後子どもの成長に合わせた転居（通学や一人部屋確保など）
- 実家祖母の介護
- 離婚による転居、その後、新たなパートナーと暮らすため転居。
- 市営住宅へ転居のため
- 借り上げ住宅が一年更新だった
- 住んでいた住居が壊されることになった
- 最後は賃貸アパートの下階が火事になったため
- 一度帰還した。
- 札幌で、居宅受け入れが始まったから。
- ご縁のままに動いた。

避難元へ帰ることを考えていますか？



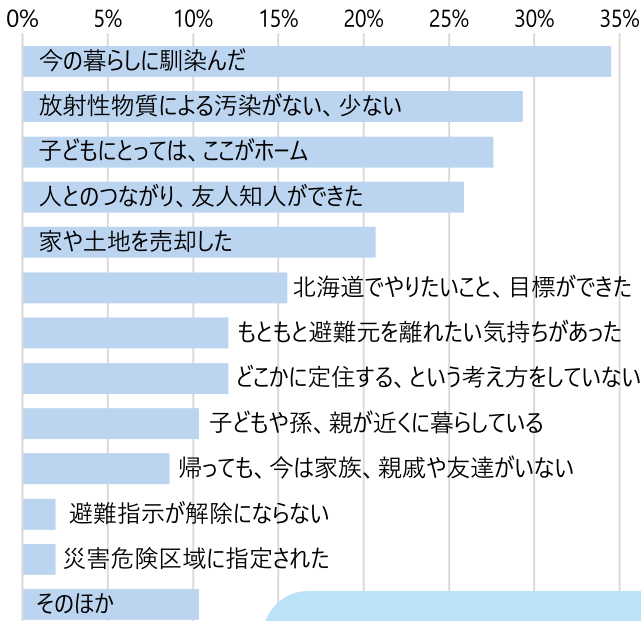
- 帰りたいが、帰れない。
- 帰りたいが、帰ってもリスクが高いことは変わらない。子どもも大きくなってきたので、定住に近い。住み続けられるように、未だ、がんばっている。
- 親の介護が必要になった時、地元の家族だけに任せていいのか、考えてしまいます。
- いつかまた住んでみたい。• わからない。

「帰る予定」とお答えの方にうかがいます。
具体的にはいつ頃を予定していますか？



- 未定
- 今は親の高齢が気になる。コロナで行けない。何もしてやれない。年々、気になるようになっていきます・・・。

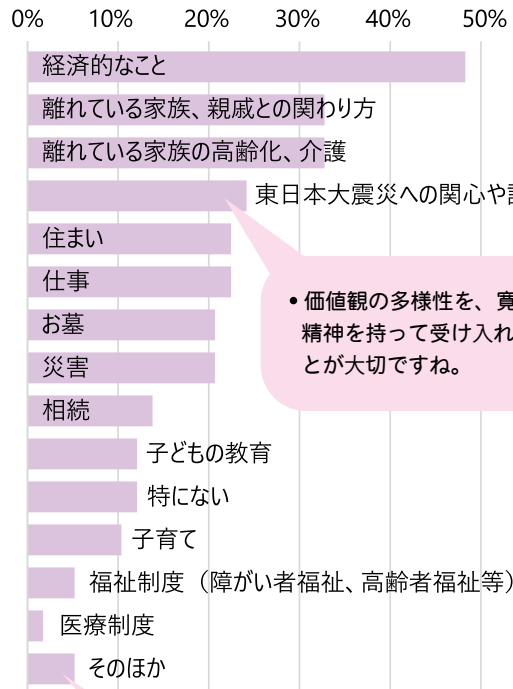
「帰ることを考えていない」「北海道に定住するつもり」と答えた方に伺います。そう考える理由は？（複数回答可）



- 北海道で新規就農したため
- 実家との関係は劣悪なので、放射能がなくても戻りたくもないし、北海道が好き
- 私は山の側に住んでいましたので、山は放射性物質が取り除かれていないし、ホットスポットになっているため
- 北海道出身、在住のパートナーができた。
- 福島は安全ではないと考えているので
- 引っ越し費用がないので移動できません



これから先、北海道に暮らす中で気がかりなこと、不安なことはありますか？（複数回答可）

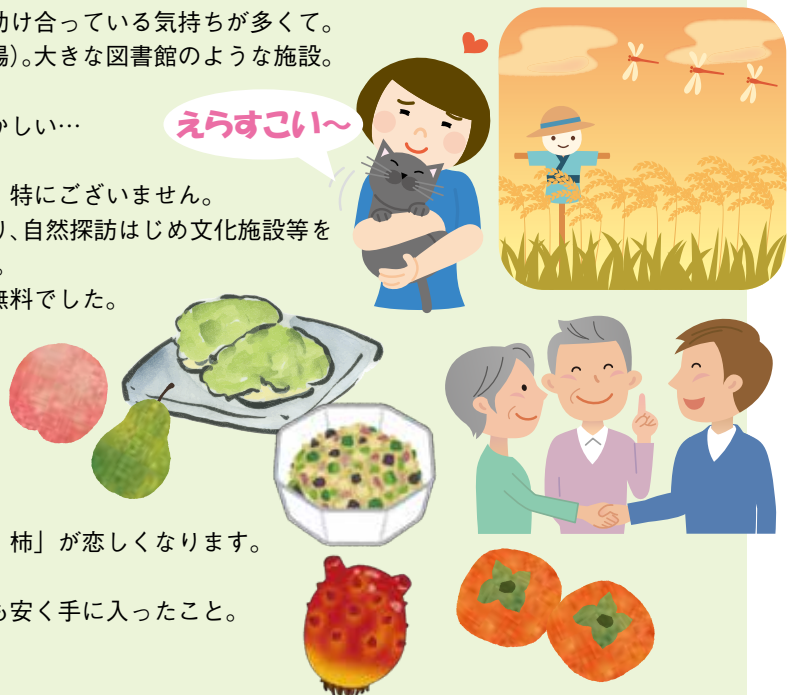


• 価値観の多様性を、寛容の精神を持って受け入れることが大切ですね。

• もうすでに老後だが、この先、冬の雪投げ、夏の草刈り、その他いろいろ。

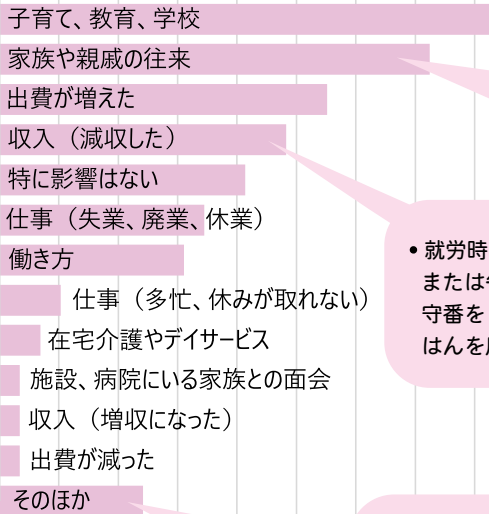
避難元にあったが、北海道や暮らしている自治体や地域にはなく、「こちらでもあったらいいな！」と思うことは何ですか？ 行政の制度でも、伝統や文化など、何についても構いません。

- 人情かな？郡山の時は心があたたかかったです。助け合っている気持ちが多くて。
- 自由に使える学習センター（住民が学生が学べる場）。大きな図書館のような施設。
- 直売所、農産物を売れるところ。
- 花火が気軽にできる場所がない。セミの声がなつかしい…
- 宮城弁でしゃべりたい（忘れかけている…）
- ふる里で充実した人生を過ごすことができたので、特にごさいません。
- ※札幌市において敬老優待乗車証の恩恵にあずかり、自然探訪はじめ文化施設等を巡り健康増進に努められるので感謝に尽きます。
- 子どもの通院医療費無料。避難元は中学卒業まで無料でした。
- 柿の木と竹林
- 子どもたちの祖父祖母。固くて美味しい桃。
- 牛たん、ずんだもちが食べたい
- ほや、仙台のたまご酒、盛岡冷麺、じゃじゃ麺
- 山形のだし、歴史ある神社仏閣、北上川の河川敷
- 青唐辛子（南蛮は辛くない）
- たまに、そこいらでなっていた「びわ、いちじく、柿」が恋しくなります。
- 焼きまんじゅう
- とれたての新鮮なフルーツ、野菜、お米が、とても安く手に入ったこと。
- 梨だけです



COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の感染拡大や緊急事態宣言により、影響があったことは何ですか？(複数回答可)

0% 5% 10% 15% 20% 25% 30% 35% 40%



・義弟の訃報が届いても、地元への帰省が叶わなかったこと

・就労時間を終日から、午前または午後にした。昼は留守番をしている子どものごはんを用意している。

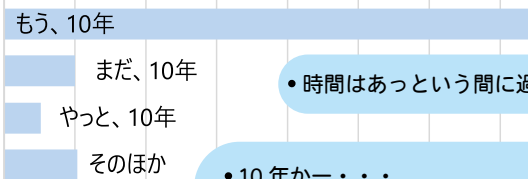
・友人たちと会えない。旅行(東北含む)に行けない。
 ・主人と会えない ・妻の負担増。余暇の使い方が変わった。
 ・近所の人や趣味の人との集まり、懇話などができない。
 ・店やスポーツイベントがなくなった。 ・福祉センターが閉鎖状態 ・健康
 ・病院の予約を入れていたが、病院自体閉めていたため、電話連絡をしたり大変だった。飲み薬など必要なものは配送してもらい、こちらの都合ではないのに送料がかかってしまった。
 ・介護の仕事は変わらないが、ハンドメイドのワークショップはできなくなった。



東日本大震災から10年を迎えて

来年3月で東日本大震災から10年になりますが、今の思いに近いのは？

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70%

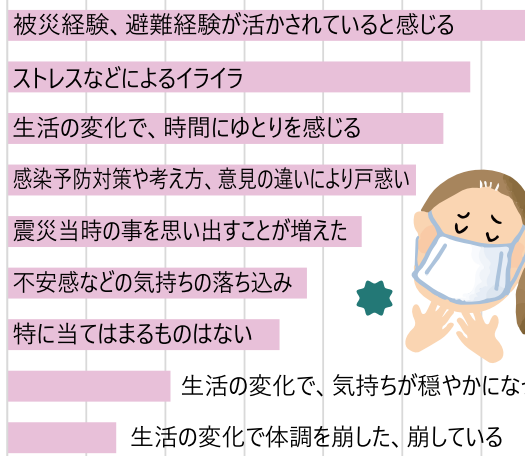


・時間はあっという間に過ぎるものですね。

・10年か・・・。
 ・子どもの年を考えると「そっだよな」と思うが、3.11を思うと、何とも空白的な感じです。
 ・そうか10年か。・あれ？10年
 ・もう、やっと、まだ。全部を思います。

COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の感染拡大後、次のうち当てはまるものはありますか？(複数回答可)

0% 5% 10% 15% 20% 25% 30%



・健康
 ・いつもそのことを思っているから。

・札幌市民と付き合いがない
 ・子どもたちへの支援
 ・あくまでも個人的には、特に必要と思うものはなくなった。
 ・我も人もの幸せを求める言動を取れる人格作り。

2020年9月現在の避難者数は1447名。道内179市町村のうち、人口1500人以下の自治体は8町村です^{*}。自治体を構成できるほどの方々が10年を迎える今、北海道に暮らしていると思うと、この震災による影響の大きさを改めて感じます。会う機会が少ない中です。伝えたい、掲載したいことがありましたらお気軽にご連絡ください。

^{*} 2020年1月1日現在 住民基本台帳による



寄稿 1ページのたより

ここ数か月のコロナ禍、皆さんご無事でお過ごしでしたでしょうか。私は用事や目的のない外出はほぼしなくなり、加齢も伴ってインドア傾向に拍車がかかっています。家に引きこもる時間が増えてしまったため、運動不足で筋力も衰えてきておりますが、これからやってくる冬で更なる運動不足が予想でき、このままではまずい、と怯えるこの頃です。

そのような訳で、テレビを見る時間が多くなったこの夏でしたが、今年には戦後75年ということもあってか、戦争に関する番組をいくつも目にしました。「この世界の片隅に」の再放送があったのは、子供たちにとってよかったです。そのほかに戦争の体験をもとに作られたシヨートアニメもあり、次代を担う子供に引き継いでいく為には、アニメーションは欠かせない手段だと思いました。また、偶然テレビをつけるときに、若手の有名な女優さんが戦争体験の一人芝居を演じる番組が放送されていたのですが、その迫力は、見ている自分がその話の中にあるような感覚になるようなものでし

た。朗読劇というのかわかりませんが、子供と思わず見入っております。それらの番組の中でも私が一番印象的だったのは、アウシュビッツ収容所についての番組でした。当時ナチスに見つかからないよう箱や瓶に入れて地中に埋められていた手紙が、1945年頃からいくつも見つかったというのですが、これまではインクが滲んで書かれている内容が判別しなかったようです。それが現代のデジタル技術の進歩で一気に解読が進み、収容所での様子が新たにわかってきた、というものでした。収容所のおぞましさは言うまでもありませんが、まだわかっていないこ

とも沢山あるという事でしたので、今後も新しい技術により、新たに解明されることが出てくるのだろうと思います。新しい技術といえば、昔の白黒写真をカラーに復元するという取り組みもなされていることが話題になっていました。復元された写真は人物も景色もどれも生き生きとして見え、色がつくだけでこんなに身近に感じられるものなのかと感動しました。しかし中でも衝撃だったのは、原子爆弾のきのこ雲に色を付けた写真でした。皆さんもニュースなどでご覧になった方もいらっしゃると思いますが、その雲の色は、黄色と見えますが、その雲の色は、黄色のようなオレンジ色でした。これは

実際に目撃した人の話などを元に、Aで色付けされたものだそうです。これを見たとき、今まで白黒で見っていた「過去の写真」は急に現実のものと感じられ、今と繋がっているということを改めて突きつけられたような気がしました。

ステイホームで知る、平和



平和を願う心が大切ですね...

ここから これから からから相談 「お墓のなやみ」

わからないことがありましたら、お気軽に北海道
NPOサポートセンターにお問い合わせください！

避難者アンケートの「北海道に暮らす中での気がかりな事」の中に、「地元と北海道、お墓をどこに建てたらいいの」「お墓の引越し(改葬)」という記述がありました。お墓についての相談となると、家々によって状況も違うので、家族や親戚と相談するほかにどこに相談したらよいものか、考えてしまいます。そこで、今年で活動をはじめて23年になる認定NPO法人 葬送を考える市民の会 澤さんにお話を伺ってきました。

一人で考えこんだり、家族で答えが見つからずお悩みの方は、イセの方のお話を聞くのも一歩前進するための方法です。葬送を考える市民の会では、生と死、葬送に関する情報交換の場として、気軽にしゃべりをする「おしゃべりサロン」や葬送に関する相談、60代以上で大切な方を亡くされた方のための茶話会なども行っていますので、気になること、心配事がある方は、気軽にご相談ください。



認定NPO法人 葬送を考える市民の会
代表理事 澤 知里さん

「改葬(お墓の引越し、墓じまい)」の手続きを教えてください。

自治体によって必要な書類や手続きが違うので、現在お墓のある自治体への確認が必要です。

[一般的な改葬の流れ]

新しい墓地の確保

移転先の受入証明書を発行してもらう

現在の墓地での手続き

お墓や納骨堂の管理者(寺院、霊園など)から
埋葬証明書を発行してもらう

改葬許可の申請

現在の墓地のある自治体の窓口申請し、
改葬許可証を発行してもらう
(改葬許可証は、1遺骨に対し1通必要)

現在の墓地から遺骨を出す

専門の業者をお願いします。
返還する場合は、使用する前の状態に戻す必要がある

新しい墓地への納骨

改葬許可証を移転先の墓地の管理者に提出する

※図にある手続きは、新たな場所に埋葬する場合があります。散骨をする場合は、少し異なります。

費用はどれくらいかかるものですか？

一概にいくら、とは言えません。現在のお墓が自治体の墓地か寺院か、何体の遺骨がおさめられているか、墓石の大きさや墓地の広さ、立地条件によりさまざまです。また、寺院の檀家を離れる場合は、これまでお世話になったお礼なども用意すると良いかもしれません。

お骨を移動させる方法は？

特に決まりはありません。自分で持ち帰ってもいいですし、複数のお骨となるとかなりの重さになるため、お骨を郵送する方法もあります。日本郵便のゆうパックだけが行なっています。「ご先祖様に申し訳ない」「バチが当たるのではないかと」気にされる方もいますが、なにごととも考え方だと思います。今、生きている人にとって負担にならない方法をとることが大切です。



「避難元と北海道、お墓をどこに建てよう」と悩んでいる方もおられます。

大切なのは、今を生きる人が暮らしやすいように、安心して暮らすように考えること。今は、親族が離れて暮らしていたり、お墓を継ぐ方がいないということで合同墓の利用や散骨する、などお墓以外の方法を選ぶ方も増えています。遺骨はいつまでにどこに収めるという決まりはないので、いったん手元に置いてゆっくり考えることもできます。

認定NPO法人 葬送を考える市民の会

〒060-0062 札幌市中央区南2条西1丁目1番2号 21きのしたビル9階

電話 & FAX **011-261-6698**

e-mail sosominna@gmail.com

1997年に、数人の市民が感じた、葬送儀礼に関する素朴な疑問がきっかけで始まった会。葬送に関する情報提供(葬儀やお墓、遺言などの講座、勉強会など)や、個別のサポートを行っています。現在、道内を中心に約400名の会員が在籍しています。

表紙写真/宮城県気仙沼市本吉町 小泉海岸



[海岸から防潮堤を見上げる]
宮城県内で最も高い、高さ14.7m、底辺90mの巨大防潮堤が建設された海岸。総事業費は河川改修も含め380億円を超える。写真中央に写る人の大きさから、この建造物のスケールが想像できる。防潮堤の上に立つと、地上では感じなかった風が吹き抜ける。

[海岸から海を眺める]

震災前は、白砂青松百選(白い砂と松により形成される日本の美しい海岸)にも選ばれた砂浜の広い遠浅の海岸だったが、東日本大震災の津波により、約200m砂浜が後退し、松原も流された。防潮堤建設は2019年に終了し、夏からは海水浴場も再開した。また、波が良いことから1年を通してサーフィンを楽しむ人々が訪れている。

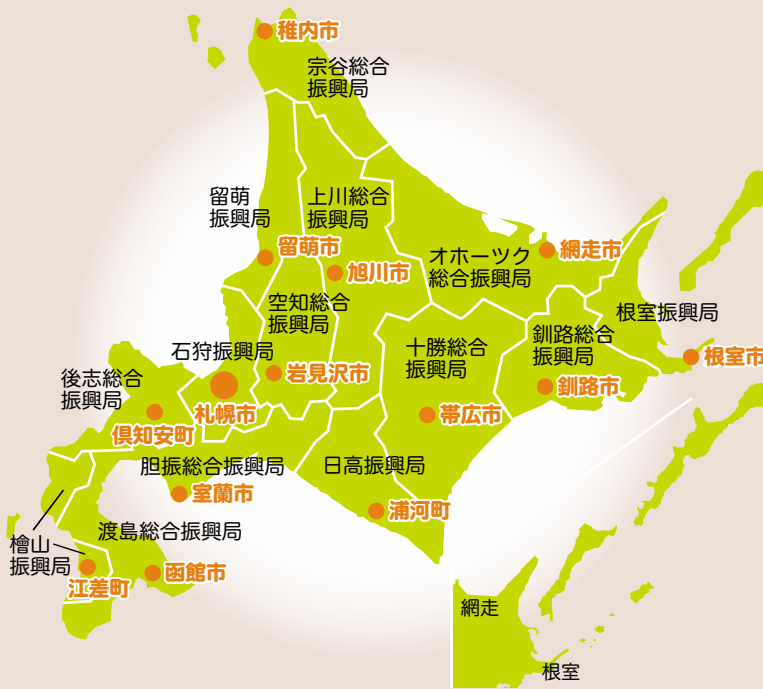


[防潮堤の上からの眺め]
底辺90mの防潮堤が海岸(左)と陸(右)の間を走る。防潮堤の上は風が強く、高さもあることから、完成後、パラグライダーを楽しむ方も。

北海道における被災避難者の受入状況

[2020年9月9日現在]

※北海道のホームページでもご覧になることができます。



	岩手県	宮城県	福島県	その他	合計	
空知	岩見沢市	1	4	8	0	13
	他8市町村	0	3	19	0	22
石狩	札幌市	16	170	479	105	770
	江別市	2	14	36	0	52
	千歳市	3	13	17	0	33
	恵庭市	0	0	33	0	33
	北広島市	0	2	13	0	15
	他2市町村	0	1	7	0	8
後志	小樽市	0	4	17	9	30
	他4市町村	0	3	10	0	13
胆振	苫小牧市	4	18	9	0	31
	他5市町村	0	7	15	0	22
日高	2市町村	0	0	6	7	13
渡島	函館市	6	31	75	17	129
	北斗市	0	4	14	0	18
	2市町村	0	0	7	0	7
檜山	2市町村	1	3	0	0	4
上川	旭川市	5	26	50	9	90
	他9市町村	3	8	15	9	35
宗谷	1市町村	1	0	0	1	2
オホーツク	北見市	0	2	13	0	15
	他7市町村	0	4	13	0	17
十勝	帯広市	4	3	18	3	28
	他1市町村	0	0	1	0	1
釧路	釧路市	3	17	10	8	38
	他1市町村	0	0	2	0	2
根室	2市町村	0	2	4	0	6
総計	60市町村	49	339	891	168	1,447

避難者相談窓口

TEL 011・200・0973

NPO法人 北海道NPOサポートセンター

平日 10:00~17:00
FAX 011・200・0974
info@hnposc.net

〒064-0808 札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園 201

地下鉄東豊線「豊水すすきの駅」6番出口から徒歩約7分
地下鉄南北線「中島公園駅」1番出口から徒歩約5分

全国避難者情報システム「ふるさとネット」の登録について

「からから便り」は「ふるさとネット」の登録情報をもとに発送しています。「ふるさとネット」は北海道が運用する被災避難者サポート登録制度です。この制度は自治体の転出入届とは連動しておらず、転居の場合は住所変更のご連絡をいただかなければ、郵送物が「所在不明」として返送されてしまいます。転居、登録解除など、「ふるさとネット」の登録内容に変更がある場合はご連絡ください。

■連絡先

- ① NPO 法人 北海道 NPO サポートセンター
- ② 北海道総合政策部地域創生局地域政策課
電話：011-204-5800
メール：shienhonbu@pref.hokkaido.lg.jp
- ③ 避難先市町村の担当窓口（市町村により部署が異なります）

編集後記

新型コロナウイルスが収束しないまま、あっという間に夏が過ぎ去っていきました。暑い日には早く夏が終わってほしいと思いましたが、いざ過ぎ去ってしまうと暑さが恋しくなってきました。

本号はアンケート回答の共有がメインとなっています。紙面の都合で十分に載せることが出来ませんでした。様々な声が皆さんから届きました。紙面に加えて交流会などにも反映をしていきます。こんな情報がほしい、企画してほしいなどありましたら、いつでもご連絡ください。（定森）